



「変わってないなあ」

理事長 赤西 雅之

2019年がスタートしました。卒園生の皆様、お元気ですか？

私は3学期が始まって早々に東京へ講義で出張していました。山手線の巣鴨駅にお迎えの人が来てくれているということで、私は東京駅から4番線に乗りました。しばらく電車に乗っていなかったのが驚きましたが、電車の中の乗客のスマホ依存症は、すごいスピードですんでいるようです。あっちでもこっちでもではなく、ズラリ並んでという具合です。

聞こえるのは、電車の音と駅名を告げる機会音のみ。あとはシーンとして、みんな無表情に小さな画面を見て、タタタタとせわしなく指を動かしています。

日暮里駅で、私の前に賑やかな格好の女性が乗ってきました。黒いレザージャケット、レザーのミニスカート、真っ黒な高い木のヒールの靴。真っ黒な眼の回りでデカデカの髪の毛。そして、真っ赤な口紅。私は、上から下まで「すごーい」と呆気にとられて見ていましたが、周りの人は誰も見ません。相変わらず、うつむいて「タタタタッ…」。

私は、「せっかくバシッと決めているのに誰も見てくれないのは、この女性も残念だろうな～」と呑気なことを考えながら電車に揺られていました。

他人と共感するためには、ひとりひとりの自覚と自ら向かおうとする姿勢が必要です。しかし、これを促すのはなかなかむづかしいです。「タタタタッ」の世界に没頭することに慣れてしまっている人達に、顔を上げて、周りを見よう、自覚を求めるのには、どうしたらいいでしょう？私は、無責任なようですが「まあいいか」と思っています。みんな自由に自分のしたいことをしているのに、文句はありません。ただ、それは自分に責任を負うものが少ない時に限られます。たとえば、結婚して子どもが産まれたら、それは通用しません。自分のためでなく、家族のために見るべきもの、聞くべきものから逃げることはできません。いつまでもうつむいて、「タタタタッ」の世界に埋没してはいられないということです。また、私は行儀良くすることを強制しませんが、顔を上げて、周りをよく見ることはしたいと思います。自分のしたいことではなく、「今何をすべきか」を考えて欲しいと思います。何故なら、多くの人は自由にしているようで、実際は不自由に囲われているし、したいことをしているようで本当にしたいことには届いていないという、屈折した欲求不満を抱えていると思うからです。「今何をすべきか」を見つけるためにする観察(observe)と思考(thinking)が、不自由に囲われていることから解放され、本当にしたいことに届く自己実現への一歩になることを信じます。

そして、共感・共有するための自覚したマナーは、一歩踏み出したその後に気付くのだと思います。

さて、幼児学舎子どもライブラリーは年度末を迎えて、子ども達の育ちの輪郭がはっきりとしてきました。今年度も個性的な力のある子どもばかりです。その力の本質は30年間変わる事のない「自分で責任をもって選ぶ」という力のことです。最近では入園してくる子ども達に2代目が増えてきました。親となった卒園生は「変わってないなあ」という印象です。学校時代が終わり、社会人となり家庭を持つ、そして親になる、ここらあたりから人の力量が問われはじめます。たくましく身につけた観察(observe)と思考(thinking)の力を充分に生かして豊かな人生を創りだしていくことを応援しています。



再会を楽しみにしています。

幼児学舎子どもライブラリー園長 前川 昌恵

★ キオラクラブの皆様、お元気ですか？

今年度もあと少しで、また新たなキオラクラブ会員が増えようとしています。新聞の発行、なつまつりへのご協力等、キオラクラブの活動が、細く長く続いている事を嬉しく思います。キオラ役員の皆様には心より感謝申し上げます。

さて、兵庫県独自の取り組みとされている中学2年生のトライ・やるウィーク。この活動が始まって今年で21年目を迎えるそうです。活動が始まった当初は、校区の中学生が数名活動に来ていた事を覚えています。その中に何人か卒園生が含まれているという程度でした。しかし、いつの頃からか、はたまたキオラクラブの情報網からか、校区外でも学校と相談したら受け入れてもらえるらしいという情報が広がりました。その頃から、中学校には「卒園生に限る」と言うお願いを出し、ただ興味がある中学生よりも、卒園生を優先できるようにこちらからも手配するようにしました。今年は6校にも及び、卒園生が14人も帰って来てくれました。ライブラリーの園児だったころと同じ顔で笑い、同じ遊びを楽しみ、同じように気配りする中学生。中学生の荷物置き場には、あの頃と同じ子どもが、服を脱ぎ散らかし、忘れ物をして行きます。でもそれを注意する気持にはなれません。気持の動きが手に取るように伝わり、愛おしくさえ思えます。最終日が近づくにつれ、中学生がライブラリーから帰って行く時間が遅くなって行くのも面白いです。

それでもさすがに中学生。ただ懐かしく遊びに来ているだけではないようです。トライ・やるウィークを終えた中学生が、お礼の手紙や体験記を冊子にして届けてくれます。その中にこんな文章がありました。「保育士の仕事は、子どもとふれ合う楽しみ、他人にはできない体験のできる喜び、共に何かを成し遂げる愉しみ」また子ども達が帰ってからの掃除や準備の仕事を経験し「地味な作業ですが、どれも明日を良いものにするためのものです」と。そんな事を話した覚えは全くありません。自分の中で感じ取ったのでしょうか。

将来の夢はまだ決めていないそうです。ゆっくりでいいですね。自分の心の中で感じた事を大切にしてほしいと願います。あの頃と同じだけど、あの頃よりグンと心も体も成長した中学2年生、子どもライブラリーに来てくれてありがとう。そしてまた今年も会える事を楽しみにしています。



キオラクラブの皆さま、こんにちは。 幼児学舎子どもライブラリー主任 土井 友紀子

★ いかがお過ごしでしょうか？

一年で一番寒い時期にこの文章を書いています。

お正月にもらった年賀状に、「どいちゃん、〇〇中学校に合格したよ」と報告が書いてありました。先週はセンター試験でした。大学受験・高校受験を控えた皆さんは、いよいよこれからですね。インフルエンザの警報が続いていますが、おかあさんのごはんをたくさん食べて、睡眠時間もしっかり確保して、元気に、明るい春が迎えられますように、願っています。

3きょうだいで12年ライブラリーに通ってくれたある家族が、今年で卒園します。次は、高校1年生、中学1年生、小学1年生、みんな卒業・入学の春になるそうです。ご縁があって3人とも担任させてもらって、思い出深い家族がまた次のステージに進むんだなぁと思うと、なんだかしみじみします。

1年ほど前、私はライブラリーの近くに引っ越しをして、通勤時間が自転車5分になりました。(朝、職場に5分で着くというのは最高です。)定時で出勤している時は、安室小学校前の歩道橋から登校班で降りてくる大勢の小学生の中から、卒園生を探すのが楽しいです。ちょっと早めに出勤する時は、部活の朝練に友達と楽しそうに向かっている中学生や自転車を爆走している高校生(気をつけてね)の卒園生をよく見かけます。休日にウロウロしていると、同じくウロウロしている卒園生やお母さんによく会うようになりました。スーパーやレストランで会うのはちょっと恥ずかしいけれど、時々ふいに訪れる卒園生の再会?は日々の大きな活力になります。

ライブラリーでは、今年度も親子ミュージカルに向けて動き始めました。たくさんの卒園生、お母さま方に、3月10日今年のじんろく組を応援しに来て頂けると嬉しいです。



★★ ここまで本気です 父親学習会

お父さんが運動会のダンスに参加し、ミュージカルに出演するなんて娘が在園していたころには想像もつきませんでした。ましてやお父さんのサッカークラブができるなんて。

当時お父さんだけの参加行事と言えば、年に一度の父親学習会だけでした。

当時(5年前)の父親学習会は穏やかでした。

- 1.理事長(当時は園長)の話を聞く
- 2.園での様子をスライドで見る
- 3.子どもたちが歌っている歌を歌う

理事長の話に考え、家で話せるように整理し、スライドではわが子を探し、

家で子どもとうたえるように歌をおぼえました。

そんな穏やかな、有意義な父親学習会でした。

ところが今の父親学習会は穏やかではありません。

- 1.ライブラリーのグラウンドでハンター
- 2.理事長の話を聞く
- 3.園での様子をスライドで見る

ライブラリーのグラウンドに集合し、そこで一時間たっぷり、お父さんによる学年別抗別のハンターや雪合戦が行われます。

驚いたのは、6月の暑い中、どのお父さんも真剣に走ります。声を出します。

雨の中、グラウンドが泥の状態でも、「やっぱりライブラリーはこんな時でもやるでしょう」という理事長の言葉と共に泥にまみれになりながら走り回った年もありました。それでもお父さんたちは、元気に走ります。

その真剣なお父さんたちを完膚なきまでに叩き潰す先生達も凄い。さらに今でも現役の理事長にも驚かされます。

そういった、緊張がほぐれた後というのは、疲れていても意外に理事長の話が頭に入ってきます。他のお父さんが身近に感じられるようになります。

限られた時間の中で真剣に遊ぶことの大切さ

答えをいってくれないなと感じていた理事長の話が、こういうことだったのかとわかること、ライブラリーに行かせてよかったなと改めて感じるができる復習の場となりました。家に帰っての家族への報告も饒舌になります。

卒園されたお父さん、久しぶりに父親学習会のぞいてみませんか?新たな発見があります。



「いつでも本気!ライブラリー」

手島 紗也加

★★ キオラクラブの皆様、はじめまして。

7月のなつまつりでは、大勢のキオラのお父様、お母様にご協力頂きまして誠にありがとうございました。そして8kmハイキングでは、今年はFCライブラリのお父様にも交通整備にあたって頂きました。キオラクラブの皆様のご協力のもと、行事がスムーズかつ安心して行われています事を感謝いたします。

さて、私事です。手島家は3人男兄弟で、全員ライブラリーにお世話になっていて、今年で6年目です。長男をライブラリーへと思ったきっかけは、ある日の散歩で「子ども ライブラリー」と書かれる建物横の庭で、年長さんとみられる子どもたちと、T先生・S先生が本気度100%の顔でドッジボールをしている姿を目撃し「子どもライブラリー?部活!?保育園!」と気になり色々調べ、吸い寄せられる如くライブラリーに入園依頼の電話をかけている自分が居ました。ライブラリー生活では、時に子育てに迷い、自分自身にも正直になれず、子どもの問題と向き合う事すら怖い時もありました。そんな中、ライブラリーの先生方は、時には直球で話し合い、時には共感して下さり、厳しさと温かさを持って接して下さいたからこそ今があります。

今は情報化社会で便利になり、働くお母さんも増えて、時代は流れつつあります。そんな中でも、変わらず貫くものがライブラリーにはあると感じます。又、大人のサッカー大会や卒園生サッカー、青大将クラブ、お母さん方のお月見会・様々な交流の場が発足・進化しつつあります。「大人も子どもも楽しまなくちゃ!」一番はこれだと思います。そして時代が変わってもライブラリーの子ども達は相変わらずで、冬でも半袖でサッカーしている、万国旗塗では顔までペイントされている、本気で泥だらけになる...母は洗濯が大変だけれど、いつまでもこのような風景が変わらずにあることを密かに期待しています。

『お元気ですか?』

本山北町あすのこども園 春名 節子

子どもライブラリーを出てからもう7年が過ぎました。現在勤務している神戸の園でも、自分の頑張る場所、働く場所がちゃんとあって、さまざま困難はありながらも、職員は仲良く頼もしく、子どもたちもとてもかわいく、恵まれた毎日です。

異動してから7年にもなりますが、子どもライブラリーは、いまだに胸が痛く切なくなるくらい大切な存在です。何が何でも子どもライブラリーだけは、永遠不滅の園であるようにと、心から願っています。

近寄ると切ないので、あまり行きたくないのですが、H30年のクリスマス会は、勇気を振り絞って、見学に行きました。理事長先生が子どもたちのすぐ後ろに座らせてくださって、切なく楽しくしあわせな時間を過ごさせていただきました。20年位前担任していたまどかちゃんとなつみちゃんが先生で頑張っていました。「がんばれ、がんばれ」と思いました。30年位前に担任していたY君のジュニアが、Y君の小さいころと同じの姿形と動きとかわいさで、ライブラリーっ子になっていました。お部屋の空気も、柱も壁も床も、何も変わってなくて、私の中では、神戸で過ごした7年くらいなかったことになりそうな勢いでした。

街を歩いているとき、昔の名前で「むとう先生!」「むっちゃん!」と、声かけてもらうと、とても懐かしくうれしいです。子どもたちは大きくなって、なかなか見分けがつかないことも多いのですが、毎年成人式には、今年はどの子たちが成人式かなと、思いを馳せます。愛しい子どもを真ん中にして、一緒に笑ったり悩んだりした保護者の方々は、古い仲間のように思います。お互い長い年月の中、さまざまな格闘も葛藤もある平たんではない道のりのはずですが、子どもライブラリーにいたころのように頑張って歩んでいきましょう。またお目にかかれることを楽しみにしています。



こんにちは

加古川こども園 春名 由美子

古い卒園生の保護者の方は、いつも変わらず声をかけてくださいます。

「ぜんぜん変わらないですねー」とお互いに言い合いますが、きっとタイムスリップしてるだけかな…。駅で、スーパーで、デパ地下で、卒園生の様子を教えてもらう機会は貴重なひと時です。ご結婚やパパママになったことや、子どもさん(お孫さん)がライブラリーに入園が決まった話。受験、就職の話も。みなさん最後には「あの頃が1番楽しかった」と仰いながらも、今もキラキラしておられます。

最後に担当した子どもたちが高校を卒業しようとしているので、私もライブラリーを卒業して12年です。ライブラリーで前川園長先生(旧姓コブちゃん)と一緒にクラスを持って仕事をしていた頃は、ずっと子どもの話しをし、いろんなことを深く話し込んだなあ、あのエネルギーを時々思い出し、自分を奮い立たせています。

離れて見るライブラリーの1番変わっていないところは、「変わりつづけている」ところだと思います。いつも楽しいことをひらめいて、客観性を持って、進み、広がり、進化し続けているところがすごいなあと思います。そして今も昔も、その変化に対して、いつでも子どもたちはスタンバイが出来ていました。これがいいなあと思います。

卒業、進学、就職など、変化の時を迎えているみなさんに思いを寄せています。ライブラリーのようにゆるぎない基礎があれば、何をしてもOK。新しい自分に出会う時期を楽しんでください。

来春、加古川こども園にまたひとりライブラリーfamilyの方が先生としてやってきます。秘密兵器です。古い知り合いに会った時、またご縁が繋がった時、恥ずかしくない自分でありたいと思います。



思い出
いっぱい!

2018 ライブラリー



☆☆ なつまつり報告

**こどもたちは、大きくたくましくなって、
お手伝いに来てくれました。**

男の子はそのまま背だけ伸びて、女の子は本当にお姉さんになって、誰だかわからないぐらい。それでもみんなが集まると昔のままの会話です。
お母さんたちは、多少!? 増えたシワやシミは気にせず、私たち、変わってないよね〜、と。
みんなが昔のままでした。 担当



☆☆ 運動会報告

平成最後の運動会。

入場門には平成各年の出来事が
保護者競技にも平成の問題が登場



☆☆ トライやるウィーク報告

**今年もたくさんの卒園生が
参加してくれました!**





サッカー特集

メンバー
募集中!!



ライブラリーのサッカーチームができましたよ。
チーム名は「FC.LIBRARY」です。

2018年1月に卒園在園のサッカー好きお父さんたちが集まり、会議がありました。

ライブラリーで出会って、サッカーで出会って、更に新しい事にチャレンジしようという事で姫路市のリーグに登録して戦ってみようという話し合いでした。色々な手続きや、お金も手間ももちろんかかりますし、日曜日に試合があります。それでも、高い志でこの1年は始まりました。未経験者も多数含む中、試合をやってみれば快進撃の連続です。元々身体を動かす事が大好きな人たちがばかりだったので、中々強いチームです。年間通して今は上位をキープしています。そしてこのチームは、ライブラリー関係者なら誰でも入団可能です。興味のある方は、いつでも話しますので聞いて下さいね。応援よろしくお願いします。

FC LIBRARY 赤西先生



それなりに本気の社会人チームです。今年度の4月より姫路市社会人サッカーリーグに新規加入しています。今年度の成績は3部リーグにおいて、現在4勝3敗2引き分けです。ただし、残りの3試合は全勝予定です。

活動は年に約12回の公式戦と月2, 3回の練習です。社会人の集まりなので、毎回全員の参加はできません。我々メンバーは長いブランクや未経験者ばかりのチームです。対して公式戦の相手はサッカーを長年続けているメンバーばかりでしょう。でも結束

力では、我々が一番のはず。そこには子どもライブラリーがあるから。互いの子ども達によって強い繋がりがあるからです。お母さんたちにも理解をもらって、メンバーは家族で応援してもらっています。加入資格は、「子どもライブラリーの職員、保護者、同窓会会員、ライブラリー関係者であること」卒園生、また卒園生の保護者も含まれます。メンバーには、最高齢 赤西理事長(選手兼監督)、アタッカー赤西新志、機関車トーマスもいます。

「サッカーを愛し、末長く楽しむことを目的とし、サッカーを通じ、会員相互の親睦と個々の心身の鍛錬を図る」これは試合や練習を通じて我々の目指す活動目的です。

公式戦の見学や練習のゲスト参加をしていただくこともできます。入会までの見学やゲスト参加に費用は必要ありません。正式加入の際には、入会金と年会費を設けています。

私自身、チームに大変感謝しています。同じ目的を持って進む友人をこの歳になって作ることが出来ました。下手くそなのにできました。

我々は、公式戦での勝利を目指しながら楽しんで楽しんで楽しんでいます。

少しでも興味をお持ちでしたらお問い合わせください。チームメンバー、ライブラリーの全職員がお待ちしております。

最後に、ライブラリー関係者を中心とした各方面の方々より多くのご支援をいただいております。チームとしてこの場を借りて御礼申し上げます。

頼りないが一応主将 田村彰朗



3年前に発足したキオラFCは毎年卒園生に声をかけ、 今は1年生から4年生の約30名の子どもたちが在籍しています。

コーチは、僕とトーマス、そして1年契約で淳平君（土井先生の弟）。火曜木曜週2回の練習。今年からはグラウンドも広くて新しい所に移り、益々子どもたちのやる気を感じられ、嬉しい限りです。子どもライブラリーと一緒にサッカーしてきた仲間と、卒園してもやりたいなあ。という気持ちがチームの始まりです。だから、時々懐かしい先生達とも勝負もしますし、ハンターやリレーなどもして、毎回楽しい時間を過ごしています。練習の最後には、皆でシャトルラン。へロへロになって帰っても、「また行こう。」と思えるのは、“幼児期と一緒に過ごした仲間”がそこにはいるからだと思います。そしてそれは僕も同じ。卒園して見送った子どもたちとの時間が続いていること、成長が近くで感じられること、これがただただ嬉しいなあと思うこの頃です。

キオラFC 赤西先生



赤ちゃん誕生

2018年11月3日20時ちょうどに子どもが
生まれました。
名前は祝（しゅう）です。
皆さん会える日を楽しみにしてください。
家族3人で日々楽しく過ごして行きます。



是非、HPを
ご覧下さい!!



子どもライブラリー

子どもライブラリーのHPを ぜひ、ご覧下さい!

理事長の言葉も定期的に更新中! キオラ通信もご覧いただけます!

ホームページアドレスはコチラ!
右記のQRコードを読み込むことで簡単にアクセスできます!



次回特集予告

ライブラリーの卒園生や保護者の方が関係されているお店や
お仕事をキオラ新聞で紹介させてください。自薦、他薦問いません。
近況報告に紹介してください!

編集後記

キオラクラブ副会長 窪田憲龍

お忙しい中玉稿をいただきまして、誠に有り難うございます。随分昔になりますが、哲学者・三木清の『人生論ノート』を読んでいてこんな一文に出会いました。「成功するということが人々の主な問題となるようになったとき、幸福というものはもはや人々の深い関心でなくなった」「成功と幸福とを、不成功と不幸とを同一視するようになって以来、人間は真の幸福が何であるかを理解しなくなった」。進級進学の時期になると上記の文を思い出します。新たな習い事や塾は子ども達に成功を約束するものなのでしょうか。それとも幸福をもたらすものなのでしょうか。

私たち大人の虚栄心から子どもに様々なことを求めすぎているような気がします。習い事などに限らず、「どんだけ完璧な人間を求めてんねん」と自分に突っ込むこともしばしばです。「成功と幸福」を勘違いしている親こそ、新たな年始めにせねばならないかもしれませんね。